

「社会保障の教育推進に関する検討会」について

【目的】

社会保障・税一体改革は、国民の理解と協力を得ながら進めることとされており、特に、次世代の主演となるべき生徒・児童には、社会保障について、給付と負担の構造を含め、その意義を理解してもらうとともに、当事者意識を持って捉え・考えてもらうことが重要である。

こうした観点から、学識経験者及び関係団体の有識者による検討会を開催し、主に以下3点の実行により、社会保障に関する教育推進の機運を盛り上げるとともに、継続的・全国的に社会保障の教育が推進される環境作りに役立てることを目的とする。

- 社会保障に関して、発達段階に応じて理解してもらうべき内容・知識を整理する。
- 教育現場で役に立つ副教材（パンフレット）を作成する。
- その他、社会保障教育の推進に資する事項について検討する。

【委員】

梶ヶ谷 穰	神奈川県立海老名高等学校教諭	細野 真宏	(株) アーク・プロモーション代表
栗原 久	東洋大学文学部教授	増田 ユリヤ	教育ジャーナリスト
権丈 善一	慶應義塾大学商学部教授（座長）	宮台 真司	首都大学東京都市教養学部教授
寺田 晃	全国社会保険労務士会連合会理事	宮本 太郎	中央大学法学部教授
広井 良典	千葉大学法政経学部教授		

【開催実績】

平成23年10月11日 第1回検討会開催（直近開催：平成26年6月23日 第9回検討会）

【これまでの検討内容等】

- 高校生向け副教材（ワークシート・ファクトシート）の作成・公開
- 地域社会保障教育推進事業（全国14の高校でのモデル授業）の実施
- モデル授業の結果や教育現場の実態を踏まえた、新たな教材の作成
- 映像教材の作成
- 見直し・作成した教材等について、モデル授業での検証 等

【現在の状況および今後の対応予定】

- 第9回検討会にて、教育検討会報告書を取りまとめ
- 今後は報告書の提言に基づき、教材や教育手法について教育現場等への周知活動を実施予定（教科書会社への情報提供、教員向け講習等の実施 等）

「社会保障の教育推進に関する検討会」における論点

「社会保障」に対する人々の理解の現状(イメージ)

社会保障に関する「正しい事実」や「大切なこと」が見えにくく、きちんと伝えられていない状況

社会保障制度やその持続可能性に対する不安・不信

社会保障の本質・意義、課題等

誤解・無関心・先入観等

- ✓「少子高齢化だし、どうせ年金は破綻するんでしょ」
- ✓「自分で備えた方がマシだよな」
- ✓「社会保険料負担が重すぎる」
- ✓「国のやってることなんて信用できない」
- ✓「私たちは負担ばかりで受益はない。高齢世代に偏った制度は変わらない」…

→大人(先生、親等)の理解が子どもへ伝わる

論点①

社会保障の「現状」について

- ◆ 何が、どう誤解されているのか
- ◆ どうして無関心なのか
- ◆ 教育の現状の検証

論点②

社会保障の「何を」学んでもらうべきか

- ◆ 社会保障の理念
- ◆ 社会保障の役割と機能
- ◆ 社会保障の種類と概要
- ◆ 給付と負担の概念
- ◆ 身近な社会保障制度の仕組み
- ◆ 社会保障制度の課題と今後 …等々

論点③

副教材の作成

- ◆ 「どう」学んでもらうべきか。効果的な表現、学習方法は
- ◆ 教材活用マニュアルの作成

論点④

作成した副教材の活用、今後の展開等

- ◆ 全国の先生方への周知方法等、副教材の活用に向けて
- ◆ 実習と組み合わせた地域での社会保障教育の試行事業について

反映